

平成 23 年 10 月 25 日

各 位

会社名：古河電気工業株式会社
(コード：5801 東証・大証第 1 部)
代表者名：取締役社長 吉田 政雄
問い合わせ先：経営企画室 I R・広報ユニット長
鈴木 治
(T E L 03-3286-3050)

当社連結子会社（F C M株式会社）の
平成24年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想数値と実績値との差異
ならびに通期業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社である F C M株式会社について、平成23年7月28日に公表した平成24年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想数値と実績値との差異ならびに、通期業績予想および配当予想の修正について、別添資料にてお知らせいたします。

なお、本件による当社の連結業績への影響は軽微であります。

[添付]

F C M株式会社の開示資料

以 上

平成 23 年 10 月 25 日

各 位

本店所在地 大阪市東成区神路三丁目 8 番 36 号
会社名 FCM株式会社
代表者 代表取締役社長 市居 律雄
(JASDAQ・コード番号: 5758)
問合せ先 専務取締役 川森 晋治
電話番号 (代表) 06-6975-1324

平成 24 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想数値と実績値との差異 ならびに通期業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 7 月 28 日に公表した平成 24 年 3 月期第 2 四半期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）の業績予想における予想値と比較して、本日公表の決算において下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

また、最近の業績等の動向を踏まえ、平成 24 年 3 月期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）の通期の業績予想および配当予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 3 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値と決算における実績値との差異(平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

(金額の単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	9,600	95	90	54	円 銭 31.69
実績値 (B)	9,866	66	71	47	27.66
増減額 (B - A)	266	△29	△19	△7	—
増減率 (%)	2.8	△30.2	△20.4	△12.7	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 3 月期第 2 四半期)	7,817	192	233	151	88.78

2. 平成 24 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

(金額の単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	18,000 ～19,000	300 ～400	300 ～400	180 ～240	円 銭 105.63 ～140.84
今回修正予想 (B)	19,200	190	217	141	82.74
増減額 (B - A)	200	△110	△83	△39	—
増減率 (%)	1.1	△36.7	△27.7	△21.7	—
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	16,553	519	572	355	208.67

3. 差異が生じた理由および業績修正の理由

当第2四半期（累計）においては、総じて厳しい事業環境が続きました。なかでも電子機器・電子部品の表面処理（加工）を主とする電子機能材事業において大きく苦戦を強いられています。当初はスマートフォンやタブレットPC等を牽引役に需要の回復を期待しておりましたが、総じて厳しさを増す事業環境となりました。震災をきっかけにしたリスク分散やサプライチェーンの見直しにより、主要顧客における表面処理加工の内製化、調達先の分散化に加え、円高による海外への移管や国外製品への切り替え、見込んでいた新規開発品の量産も大きく減産になる等が受注低迷の要因となっています。また、自動車の生産調整を受けて車載部品向けの受注も足踏み状態となりました。

一方、電線、配線用ケーブル、通信用ケーブルなどの伸線加工を主とする電気機能線材事業では高圧線用の異型線は計画通りの推移となりましたが、設備用電線など汎用線向けの需要が停滞しており、全体を押し上げるまでにはいたりませんでした。

上記の状況を踏まえ、通期の業績予想につきましても非常に厳しい状況が予想されます。少しでも業績を回復させるべく、下記取り組みを実施いたします。

1. 顧客並びにマーケットの分散による利益構造の安定化
2. 民生品以外の分野での早期量産化
3. 研究開発分野の抽出と絞り込み
4. 研究開発部門において次期量産化アイテムの早期獲得
5. 設備投資計画の延期及び凍結
6. 人員の再配置による効率的生産

以上のことから平成23年7月28日に公表した通期の業績予想の修正をさせていただきました。

*当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、事業環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

4. 配当予想の修正

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期末	合計
前回予想 (平成23年7月28日発表)	—	10円00銭	—	22円00銭～ 33円00銭	32円00銭～ 43円00銭
今回修正予想	—	10円00銭	—	15円00銭	25円00銭
当期実績	—	—	—	—	—
前期実績(平成23年3月期)	—	10円00銭	—	53円00銭	63円00銭

5. 配当予想の修正の理由

当社は年間配当性向30%を指標として配当予想を発表しております。本日、平成24年3月期の業績予想を修正いたしました。そのため、中間配当は据え置き10円とさせていただきますが、期末の配当予想を修正させていただきます。

以上